

聖マリアンナ医科大学病院リハビリテーション部
理学療法科 著

理学療法リスク管理マニュアル

内山 靖

(群馬大学医学部保健学科理学療法学専攻)

先日の第 40 回日本理学療法学会大会では 1,200 題を超す研究演題が発表され、加速化する高齢社会を反映して健康維持や介護予防に関する 1 次予防の重要性とともに、地域に密着した在宅・訪問理学療法の拡充が期待されています。一方で、急性期医療の重要性はいささかも揺らぐことはなく、むしろ、超急性期から安全かつ安心できる理学療法を提供して生活機能に選択の幅と可能性を広げることが理学療法士の重要な使命といえましょう。

このような中で、今般、三輪書店から「理学療法リスク管理マニュアル」が発刊されたことは誠に時宜を得た意義深いものと感じています。本書の筆者である聖マリアンナ医科大学リハビリテーション部は、以前から呼吸・循環・代謝領域の理学療法で先駆的な取り組みをしている施設の一つで、学会大会の発表や論文で多くの成果を報告されています。また、全国の理学療法士に対する教育・啓発活動として、15 年前から「理学療法におけるリスク管理」の研修会が続けられています。リスク管理とは、ハイリスク状態での対処方法のみならず、潜在的な危険を察知して安全な治療・生活環境を設定する予測行動、最も効果が高い危険領域での安全な理学療法の実施を保証する要素を包含したものでなくてはなりません。本書は、まさにこの 3 つの要素が余すことなく含まれている良書といえま

しょう。

具体的な見出しをみると、脳血管障害、循環器疾患、糖尿病、呼吸器疾患、整形外科疾患、加齢と転倒の 6 章と索引からなっています。これをみてもわかるように、いわゆる内部障害のみならず、理学療法士が対象とする広い範囲の内容が言及されています。また、小見出しは、疾患の概念、疾患特有のリスク、リスク管理とモニタリング、多臓器・他疾患との関連でほぼ統一されており、論理的思考を整理しながら理解を進めることができます。最も頁配分の高い循環器疾患では、虚血性心疾患、慢性心不全、大動脈解離の病態ごとに詳細な解説がなされています。なお、本書は病態生理とその解釈に力点が置かれていることから、マニュアルと呼ぶには思考過程や意思決定に直結するフローチャートや一覧表が少ないように感じられるかもしれませんが、これについては、単にマニュアル通りやればよいという現代社会への警鐘を鳴らしているとも思われます。

最後に、本書に限らず、最近では理学療法士のみが執筆した書籍が目立つようになりましたが、チーム医療においてはそれぞれ得意とする領域があります。理学療法士でなければ執筆できない領域は、理学療法を実践する上での症候障害学的な臨床思考過程と評価・介入技術の具体的内容であることを改めて感じました。

本書の特色の一つでもある多臓器・他疾患との関連を踏まえた理学療法を理解するうえで、学生や新人に加えて中堅のセラピストおよび多くの関連職種にもお勧めできる一冊です。

●A5 変型判 340 頁 定価 4,410 円(本体 4,200 円+税)
2005 年 三輪書店・刊